

# ふたたび清くなる

ドーン・ネルソン  
(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

このお話はアメリカ合衆国での出来事です。

エミリーはお父さんと一緒に水中に立ち、にっこりしました。この日を何週間も待っていたのです！ それまで一度も水にもぐったことがなかったので、心臓がドキドキしています。でも、イエス・キリストのようにバプテスマを受けるのがとても楽しみです。

目をじて、お父さんが言うバプテスマのいのりの言葉を耳をかたむけました。それから鼻をつまみ、目をじ、ひざを曲げ、お父さんが水にしずめてくれました。

お父さんはすぐに水から起こしてくれて、水がしたたり落ちました。エミリーは目に入った水をぬぐわなくてはなりませんが、でもニコニコしていました。今はもう何がちがうのだと感じました。新しく、幸せな気持ちで満たされていました。その気持ちをいつも感じていたいと思いました！

お父さんがギュッとだきしめてくれました。この良い気持ちを感じ続ける方法なら知っているわ、とエミリーは思いました。正義を選び、イエス・キリストのようになればよいのです！ きっとできると感じました。

家に帰ると、エミリーは車から玄関に向かってかけ出しました。4才の弟、ジョナも同じようかけ出しました。エミリーが玄関に着いてドアを開けようとしたちょうどそのとき、ジョナがエミリーのスカートをつかんで、強く引っ張りました。

「やめて！」エミリーは怒鳴りました。エミリーはジョナの手からスカートを引っ張り返しました。そして前をふさいで、弟が先に家の中に入れないようにしました。とてもおこっていたのです！

エミリーは急にびたっと立ち止まりました。いやな気持ちで



いちいち せいぎを  
選ぶことが  
できなかったわ！  
とエミリーは  
思いました。



いっぱいになりました。道を開けて、ジョナを先に家の中に入れてあげました。

「ごめんね！」と、ジョナに声をかけました。エミリーは間違っただけを選んでしまったのです。救い主ならば、ジョナを怒鳴ったりされなかったでしょう。もう台無しにしてしまったなんて。エミリーが新たに感じていた幸せな気持ちはどこかへ行ってしまいました。

やってしまった、とエミリーは思いました。一日も正義を選ぶことができなかったわ！

次の日は日曜日でした。エミリーは教会に行くじゅんぴをしながら、自分がどんな風にジョナに怒鳴ったかを考えました。まだ落ち着かない気持ちでした。

せいさん会するとき、ビショップがエミリーの前に出て来るように言いました。かくにんを受けるためです。それは、せいの賜物を受けることを意味していました。エミリーはいすにすわりました。お父さんがエミリーの頭にそっと手を置きました。

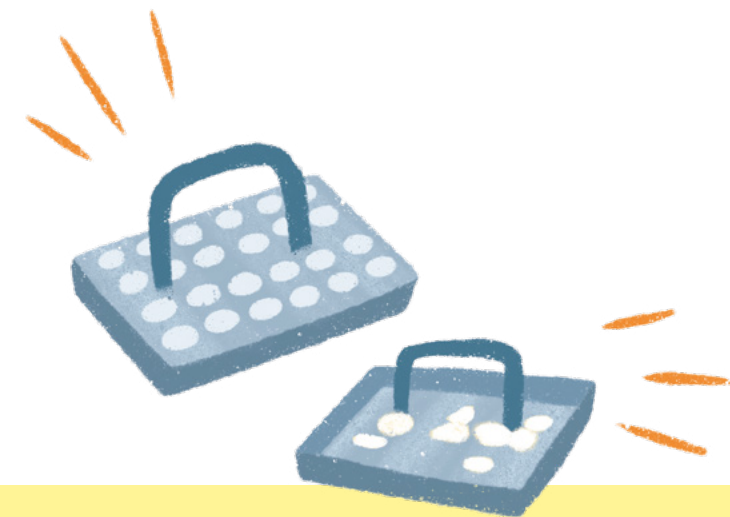
お父さんが始めると、エミリーは目をじてました。お父さんが「せいを受けなさい」と言うのを聞きました。

エミリーは続けて耳をかたむけました。

「エミリー、イエス・キリストのおかげで、間違っただけを選んでしまったときにはくい改められるということを、いつも覚えていてください」と、お父さんは言いました。「せいさんを取る度に、バプテスマを受けたときに交わした聖約を思い出すことができます。あなたは主にしたがうことをふたたび約束することができます。」

お父さんが祝福を終えると、エミリーは幸せと平安を感じました。せいが何もかも大丈夫ですよ、と伝えてくださっているのが分かりました。完全でなくてもよいのです。イエス・キリストと主のあがないのおかげで、エミリーはくい改めて、ゆるしを受けることができるのです！ ジョナに怒鳴ったことを反省していましたが、天の御父はエミリーが努力し続けることをごぞんじでした。

エミリーはにっこりと笑い、お父さんと一緒に席にもどりました。次はせいさんです。エミリーはせいさんがとても楽しみでした。●



「わたしたちがバプテスマを通して聖約の道に入るとき、天の御父が一人一人に〔次〕の言葉をかけておられることが想像できます。

『わたしの愛する、心にかなう子よ。進んでいきなさい。』

デール・G・レンランド長老「聖約を通して神の力にあずかる」『リアホナ』2023年5月号、36